

生涯学習

# 着想に女性の視点生かす

の視点を生かした着想や活躍が期待されている状況が明らかになった。

◇ シンポジウムでは、女性起業家の谷口郁子(ゆきこ)ムノエ代表取締役社長が、現在取り組んでいる商店街活性化構想について説明。この構想は一つの商店街にあらゆる診療科目のクリニック、薬局、介護支援事業所、託児所などを並設し、商店街の中心拠点にする民間・行政協働の「タウンヘルスケアマナーション」という一種のまちづくりの活動。02年には「世界優秀女性企業家賞」を受賞した。

同氏は、「全国の空き店舗のシャッターを開けさせ、高齢者や女性、子どもが、ケアを受けられる側」から「与える側」へと互いに助け合う、住民に優しい空間づくりをしたい」と今後の意気込みを語った。

事業務員から国立大学院へ、さらにカナダ留学を果たした。留学中にボランティア活動に取り組み、ンティア活動のほとんどは大学で奨学金を得ることを目的に活動に着手するが、活動を通じて「働

## 「地域活性化」テーマに第7回 聖徳大学生涯学習フォーラム 仕事・家庭の両立でチャレンジ

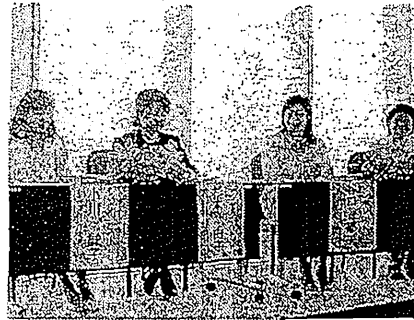
ない」と断言。KAOJで「深夜までの仕事の激務で倒れた時、息子は初めて『きょうはお弁当はいらない』』と言ってくれた。その時、親は倒れるまですり向き合わなければならぬことを思い知った」と発言した。

その日、松江市で生まれ育ち、石材業三代目社長と大学入りの両立を図る長江暉子(あきこ)聖徳大学教授は、仕事に対するよきパートナーに恵まれ、早い段階で「悪妻宣言」をしたことを話した。

午後には、「子どもの環境と地域の課題」「創年の学習課題と地域の貢献」など4つの分科会と、内閣府男女共同参画局長の名取はにわ氏による「女性のチャレンジ支援策をめぐって」の講演が行われた。

また、フォーラムでは学生と地元「創年クラブ」がコラボレーションで、ボランティアスタッフとして大いに活躍する場面がみられた。

(聖徳大学生涯学習研究所講師・齊藤ゆか)



シンポジウムの4人。左から、お茶の老舗を守り通しながら一人息子を育てている(榎芳翠園・榎老松園)の杉本由子代表取締役社長は、女性が仕事をすることについて「家族の応援なしでは続か

「生涯学習の観点から、地域活性化を考えたい」をテーマとする第7回生涯学習フォーラム(主催・聖徳大学生涯学習研究所、学術プロジェクト)が6月26日、千葉県松戸市の聖徳大学生涯学習社会貢献センターで開催された。午前中の「チャレンジする女性」をテーマとしたシンポジウムでは社会の第一線で活躍する女性4人が「働く女性の地域参加」などについて意見発表。ビジネスの場や地域で、女性

「家族の応援なしでは続か